

## 研究主題 「主体的に学び合う子どもを育てる

### 道徳教育の充実を目指して」

～他者との関わりを深める授業実践を通じた心の豊かな子の育成～  
和光市立第五小学校

#### 1 研究主題の設定理由

平成 28 年の学習指導要領改訂の際、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になってきていることが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、その指摘が現実のものとなってきている。すでに到来しつつある Society5.0 時代において、社会の在り方そのものがこれまでとは非連続と言えるほど劇的に変わり、学校教育においても、この変化を前向きに捉え、豊かな人生を自ら切り拓くことができるような資質・能力の育成が求められている。

このような学校教育の変化の中にあっても、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりといった心の教育は、変わらずに重要であり、困難を乗り越え物事を成し遂げるためには、むしろ、その重要性が増していると捉えている。そこで、本校では道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて主体的に学び合う道徳教育の充実を図っていく必要があると考えた。特に、道徳科において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、他者との関わりを深める授業実践を核とした心の教育と併せて研究・実践していくことで、児童の豊かな心の育成につながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

#### 2 研究の仮説

- (1) 「考える」「議論する」をキーワードとして、主体的・対話的で深い学びへとつながる授業構想を実践すれば、自己の生き方についての考えを深めることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（授業研究）
- (2) 道徳科を核とした校内環境を整備するとともに、学びをつなぐ他教科等のカリキュラム・マネジメントを推進すれば、道徳的实践につなげることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（環境整備）
- (3) 児童の実態から目指す児童像や重点目標を設定し、家庭・地域社会と方向性を共有する取組を推進すれば、広い視野から道徳的实践意欲を高めることができ、心の豊かな子を育成できるであろう。（調査啓発）

### 3 研究の経過

時 期	内 容
5 月	文部科学省浅見哲也調査官を講師に招いての理論研修
6～9 月	専門 3 部会での協議・作業
10 月	各ブロック等で授業研に向けての協議
11・12 月	各学年での授業研究会
2 月	東京学芸大学永田繁雄教授を講師に招いての全体授業研究会

### 4 研究の内容

#### (1) 授業研究部

##### ① 授業実践を行う理論的土台の確立

昨年度の授業研究を実施する前段階で、文部科学省教科調査官の浅見哲也先生をお招きし、道徳科の授業構想を行う際に落としてはならないことについてご講義いただいた。また、今年度は道徳教育のカリキュラムマネジメントの研究を進めるにあたり、年度当初に全教育活動を通じての道徳教育についてご講義いただくことで、道徳科の授業としてブレない構想ができるようにした。



##### ② 多様な指導過程の実践的研究

重点的に取り組んだ令和 2 年度には各学年 2 本ずつの 12 本と、まとめの研究授業の計 13 本の実践研究を行った。今年度は、総合単元的な道徳教育の研究実践の中で要となる道徳科の授業を各学年 1 本ずつと 2 月のまとめの研究授業 3 本の計 9 本の実践研究を行った。

研究の進め方としては、まず各学年において「考える」「議論する」ためにはどのような指導過程の工夫ができるか、児童の発達段階や実態に応じて多様な方法を考え、着実な実施による積み重ねを図る取組を行った。これらの実践研究を全体で共有した上で、年度のまとめとして全体授業研究会を行った。この研究会には東京学芸大学大学院特任教授の永田繁雄先生を講師にお招きし、授業についてのご指導と次年度への課題をご示唆いただき、次年度の研究へつなげられるようにした。



## (2) 環境整備部

### ① 総合単元的な道徳教育の構想・実践

各学年の発達段階や道徳教育の重点等からテーマを設定し、道徳科を要とした教育活動のまとまりを構想し、実践を行った。具体的には、例えば4年生は「公正・公平」をテーマにして総合的な学習の時間や社会科、体育科の保健領域などに関連させて学びを深める構想で実践した。実践に当たっては、例えば5年生では9月の総合的な学習の時間から10月の道徳科を通して3学期の道徳的实践へ、というように時期も具体的に構想して実践を進めた。

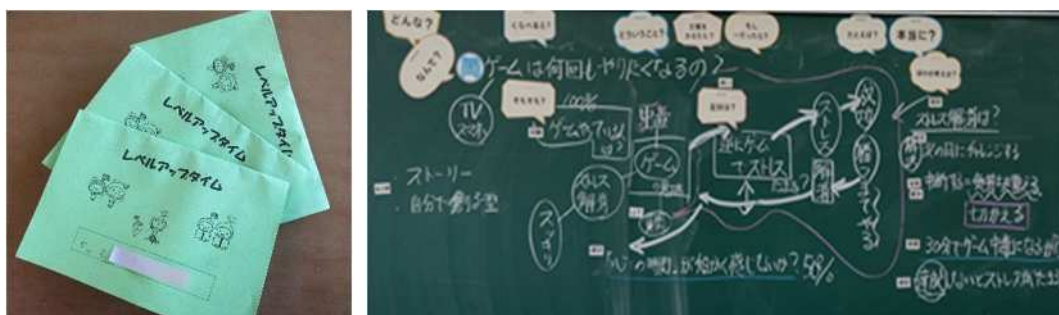


また、これらの教育活動を実践するにあたり、事前に道徳科を中心に年間指導計画の見直しを図った。その際、「彩の国の道徳」や文部科学省の資料等の扱いについても見直しを図り、「彩の国の道徳」については、引き続き各学年1～2本の教材を年間指導計画に位置付け、着実に活用するようにした。

### ② 「レベルアップタイム」の計画・実施

児童の思考力や表現力、対話力といった能力の育成をねらって、毎週木曜日の朝の15分間を利用して、答えのない問題について考え、議論する機会を設けた。

具体的には、例えば低学年段階では「朝食はパン？ごはん？」といった2択の問い、学年が上がると「一番いい季節はいつ？」といった選択肢が増えた問いや「どうしてゲームは何回もやりたくなるの？」といった答えに広がりがある問いについて、自分の考えを発表し合い、議論できるようにした。担任は児童の考えを引き出す進行役に徹していたが、実践を進める中で、児童同士で話し合いが進み、担任は板書をする役という学級も出てきた。



### ③ 道徳コーナーの設置

2種類のコーナーを設置した。1つ目は職員室に設置した教員用の道徳コーナーで、授業で活用できる場面絵やワークシート、参考図書や教科書とい

った書籍をまとめ、授業準備を進めやすくした。2つ目は各学級に設けた児童用の道徳コーナーで、道徳科の学びを振り返ることができることを目的に、児童が好きな時に道徳的な学びを深められるようにした。

(3) 調査啓発部

○ 児童の実態調査と分析

児童の実態や願いの把握という点で、昨年度から「自分のことをふり返ることができたか?」「自分の生活で学んだことを生かしてみようという気持ちになれたか?」といった道徳科の授業内容に関することから、「道徳の学習は好きですか?」「道徳の時間で学んだことは、生活の中で役に立つと思いますか?」といった道徳科に対する意識等も継続的に調査し、その理由記述の分析を通して、考察した内容をフィードバックする取組を実践した。

5 研究の成果と課題

(1) ここまでの研究の成果

○多様な指導過程を工夫することによって、児童が自分事として考えを深める授業を実践することができた。

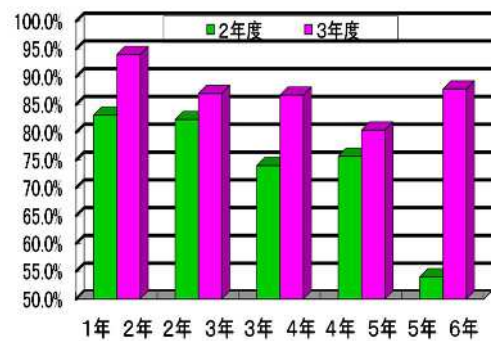


○道徳科を要として様々な教育活動を意図的につなぐ道徳教育を実践することによって、児童の主体的な道徳的实践につなげることができた。

○道徳科に取り組む児童の内面を分析し、授業構想にフィードバックすることにより、児童の道徳的实践意欲を高めることができた。

○「規律ある態度」において、各学年とも半数の項目で達成率が上昇した。また、経年変化でも、各学年で上昇している項目が見られた。

「道徳の時間が好きですか。」経年変化



(2) 次年度への課題

- 自己の生き方についての考えを深めることができる授業実践のため、引き続き多様な指導過程を工夫していく。
- 総合単元的な道徳教育が日常の教育活動として確立するよう、さらにカリキュラムマネジメントを推進していく。
- 家庭や地域社会と方向性を共有する取組を推進していくため、研究内容の周知や道徳教育についての啓発を実践していく。